

これは人によって違います、決まった宮なので命盤に『子年斗君』と書き込んでもかまいません。

その「戌宮」を「子年」として、時計回りに丑↓寅↓卯↓辰↓未……と巡行させます。つまり「戌宮」が旧暦の1月で、そこから時計回りに「亥宮」が2月、「子宮」が3月、「丑宮」が4月、「寅宮」が5月、「卯宮」が6月、「辰宮」が7月、「巳宮」が8月、「午宮」が9月、「未宮」が10月、「申宮」が11月、そして「酉宮」が12月となります。では翌年の1月はどこでしょうか？

「戌宮」ではありませんよ。平成21年は「丑年」ですから「亥宮」が旧暦1月になるのです。ここを間違えないでくださいね。

そしてこの月はすべて旧暦ですから、紫微斗数作盤便利帳（別売）で探します。たとえば平成21年の1月（亥宮）ならば、新暦で1月26日から2月24日のあいだに相当するわけです。

そして、さらにここでも『奥義飛星術』を使うことができます。太歳（1年運）の飛星は「暦」を使いましたよね。でも月運の場合は暦ではなく、その「宮」から飛ばします。

たとえば平成21年1月（厳密には1月26日～2月24日）の運勢をみたいときは、旧暦1月が

命盤で亥宮となり、その十干が「丁」なので、四化星配置表の「丁」をみて四化星を飛ばします。

◆ 閏月の場合の流月判断

平成21（2009）年の旧暦早見表をみると、5月が2回ありますよね。

この2度目の5月のことを「閏月」と呼びます。

閏月を流月でみる場合だけ、ちょっと特殊になります。

ひとつのことというと、同じ宮を連続で使うということですが。つまり、ひとつの宮で2ヶ月分の運氣を示しているわけです。

例題でみましょう。

京子さんの場合、平成21年の1月は「亥宮」ですから、順に子（2月）↓丑（3月）↓寅（4月）↓卯（5月）となります。

閏月にあたる旧暦の5月は「卯宮」です。旧暦早見表で調べてみれば一目瞭然ですよ。

その卯宮は5月24日から7月21日までの約2ヶ月弱にあたるわけです。

まあ、あまり難しく考えないでください。